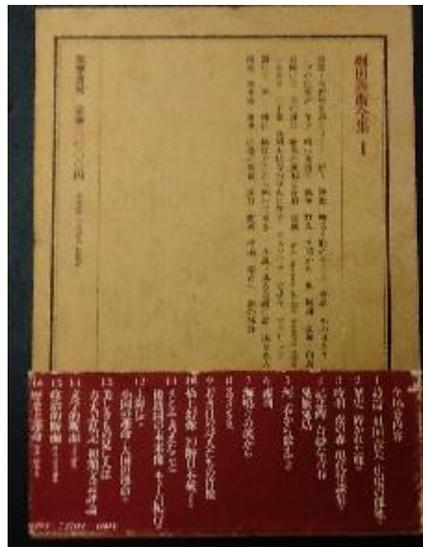
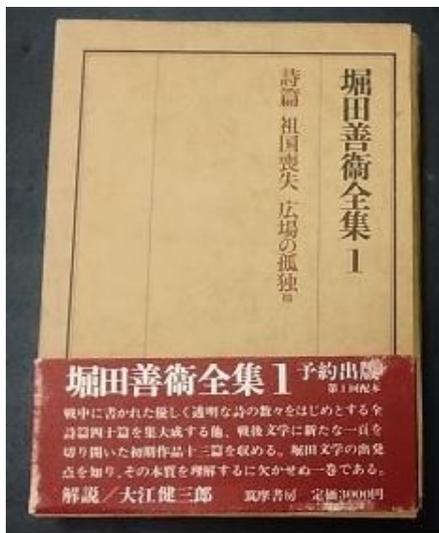


essais こころみ 2020年4月

(再掲) 2019年4月1日 (月) 朝のうちは晴れ、新元号発表「令和」
『堀田善衛全集』見なおす試み

堀田善衛全集 (筑摩書房 1974年6月20日発刊開始)



2020年4月1日 (水) 曇り⇒雨へ

昨夕から曇り空、今朝もどんよりして、これから雨の予報。今日から新年度ながら、節目のつけにくい日本と世界の状況。自他ともに少しは気持ちを向上かせようと、服装をなるべく明るくして、街をいく。

— 『私たちの望むものは』 —

月曜の夜、FMで1970年代のJ-Popの番組をやっていた。「レジェンド」を扱うもので、順にいろいろな人の歌が流れた。その最後の最後が、「岡林信康」の『私たちの望むものは』。

DJいわく、この最後の曲を先に決めて、他を組んだとか。わかる気がする。とにかく、聞き入った。言葉はシンプルだけど、全体の意味するものは鋭く、深い。これを23歳で書いたというのだから、…。

オリンピックが延期されるほどの世界的事態。今まだ感染拡大の中にあるが、「コロナ後」の議論も出てきた。そのタイミングで、聴く『『私たちの望むものは』』。

昨日の日経に『サピエンス全史』著者の寄稿が載った。コロナ後の世界について、2つの道をしめして、わたしたちがとるべき道を説いていたが、その2つは『私たちの望むものは』で語るものに通じる感。

歌はあい反する説を語り、そして繰り返す、『今ある不幸にとどまってはならない まだ見ぬ幸せに今跳び立つのだ』。

2020年4月6日（月） 晴れ

桜は近くで見るより、遠目にみるほうが見映えする。今年はどこも人がすくなく、バーベキューも禁止されて、誰もが静かに花を愛でる。これは「コロナ後」も残ってほしい。

ー 『インフォデミック』 ー

SNSは今のところやっていない。新しい技術や人間のし好性に関わるモノやサービスには功罪が付きもの。それを理解してうまく使う人は2割程度、8割の人は、「つつい」ということにならないのではないか

タバコの喫煙マナーもようやく社会の共通認識となってきた。デジタルツール、スマホも、本当にスマートに使えるようになるまで、まだまだ時間がかかりそう。

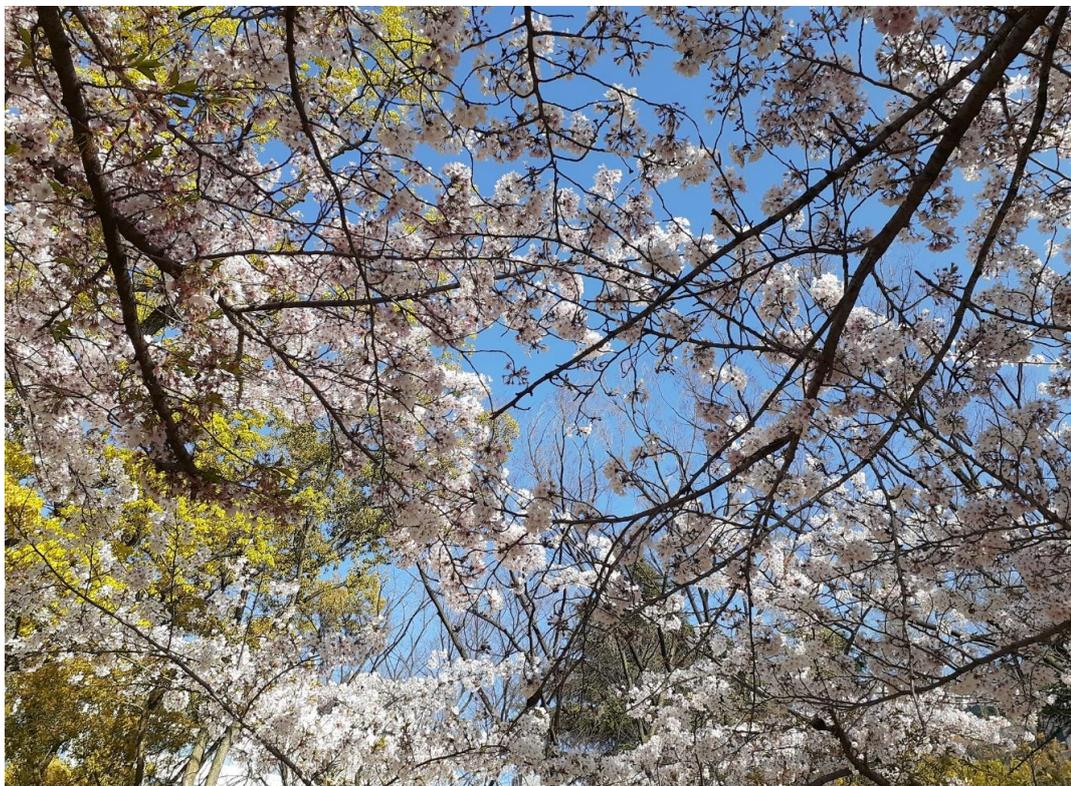
技術の進化で偽情報も巧妙になっている。日経などで時々その実態を報じているが、“人間というのは…”という想いにかられる。自分と同じ人間、崇高さも、そらおそろしさも、そなえる人間。

『インフォデミック』に翻弄されない精神。それにはまた長い年月がかかる。先月28日のensランチミーティングに子どもと一緒に参加した人がいた。読書が好きというその小学生女子に一言、『ずっと読書を続けていくといいよ、大人になってよかったと思うよ』。

今はまだピンとこないと思う。でもいずれ社会に出て、少しずつ自分を知るようになる。そしてある節目で今更ながらに、読書が糧になっていたんだと気づく。『知性のうこうに感性がある』。

2020年4月7日午後3時半ごろ、うつぼ公園の桜

本町で打ち合わせを終えたのが午後3時すぎ。天気もいいし、桜は満開だし、そのまま帰るのはもったいない。「うつぼ公園」へ寄り道。政府の「緊急事態宣言」が夜にあるのはすでに報道あり。桜の花や新緑芽生える樹々を見ながら、世界は今、わたしは今、どういう流れの中にいるだろうと、天から今をみるような面持ちで思考をめぐらせるのでした。



2020年4月8日（水） 晴れ

昨日午後「うつぼ公園」で一服した。打ち合わせの後、そのまま帰るのはもったいないので、桜散歩したのだった。人もまばらで、場所を陣取っている人たちもなく、本当に一服できた。

— 『BC』、 『AC』 —

「コロナ前」=BC、「コロナ後」=AC。今日の日経の記事に載っていた。今後こう使われていくのか。

政府の「緊急事態宣言」あり。お昼に買い物に出たら、阪急三番街は地下のみ開いて、あとはすべて休業。地下も飲食店数店のみ営業。百貨店も食品の地下のみ。

「女性チャレンジ応援拠点」も休室になった。「3密」にはあたらないけど、大阪市の施設であるから、対象になる。

『真に貴重な情報は流れの変化にある』（イーヴァル・エクランド）。2年前に時代の流れを追ってみたことがある。3日に『仕事の履歴』の今年度のページに少し紹介したが、1945年からの100年後を見ていくと、じゃ、1945年以前はどういう流れだったか気になった。

そこで1845年から1945年の100年をみた。そうすると、また、“ということは、この前は…”となって、1745年からの100年をまたみることになった。そう、「産業革命」がそこにある。

さて、『AC』は時代の流れをどう変えるだろう。感染症の歴史から時代の流れをみるのも一考。そこから何かみえてくるかもしれない。

『不景気の終る時期を正しく読む』⇒予想できる者が、不安で動き出せない競争者に対し、決定的な優位に立つのである』とも、「イーヴァル・エクランド」は著書(*)に書いている。

*『偶然とは何か 北欧神話で読む現代数学理論全6章』（創元社 2006年）

2020年4月10日（金） 晴れ

今年の桜は見え方がちがう。おだやか、ちょっと哀愁ただよう。天気はいいのに、梅田の商業施設はどこもしまっている。台風でもない限りこういうことはなかったのに。

ー 『未来への大分岐』をこえる、大分岐点 ー

「緊急事態宣言」下から3日目。3月から朝型のレベルを引き上げ、人の少ない時間帯に電車を使い、仕事で会うのはほんの限られた人だけ、事務所は一人だから安心、廊下に出る時はマスク着用。基本的には感染予防策は遂行しているが、これがいつまで続くか。

昨年9月に『未来への大分岐』を読んだ。3年前だったか、NHKのドキュメンタリーの登場人物の中で、ひと際目をひいた「マルクス・ガブリエル」。その対談が載っていたし、これからの世界を読むヒントになると思った。

2003年以来NP0へのアシストも仕事のフィールドであるが、彼らの多くは、時代は変わってもかわらない、あるいは、時代のちょっと先を読んだ社会的テーマにいち早くとりくんでいる。

『未来への大分岐』にも、世界のどこかしらに、そういう人たちがいて、共時性をともなっていることを知る。彼らが大規模化、組織化していくと、分断が進む可能性もあるが、希望的観測を持つことにして、本を読み終えたのだった。

それから3ヶ月ほどの年末に感染が明らかになった「新型コロナウイルス肺炎」。さらに3ヶ月して、世界の今の事態。希望的観測が一気に進むことになるか、その逆か、大きな瀬戸際にある。

昨年まとめた時流図の1745年から1945年をもう一度よく見てみた。主だった出来事のみ書いたが、100年前の1920年に記入がある。それをいて、“・・・?!”。

それが何かはまずはおいて、とにかく、本当に本当、大分岐点にわたしたちはいる。今を生きるわたしたちもそうだけど、未来を生きる人々の望みが世界の指導者たちに託されている。わたしたちもまたしかり。

2020年4月11日（土）大阪市営地下鉄中津駅ホーム

オーストリアで無作為に抽出した老若男女1500人のPCR検査から分析すると感染が明らかになっている数の倍の感染者数を推定。日本なら3倍になるのではないかと個人的推察。



2020年4月13日（月） 雨

昨日から雨、よく降る。風もつよい。春は雨の時の方が散歩にでる。紫外線も花粉も少ないから。昨日の午後、少し歩いた。町中の公園に数本の桜。もう新緑の葉も出ている。この雨で花もおわりそう。

— 2045年の読み —

10年前から基本的には朝型の生活。今回の事態でそのレベルを引き上げて、午前7時すぎに事務所に着き、午後4時頃には出る。今日は明日の法事準備のため午前中で帰るが。

テレビは徐々に再放送が増えてきた。今朝のNHKFMのクラシック番組も再放送に変わった。

2年前に辿ってみた時代の流れ。1945年から100年後はそれまでもよく年々追っていた。

東京オリンピックが決まった時にその後の10年ぐらいは予想できたが、その後がなかなか掴めない。そこで1945年の100年前を見るみることにした。

するとまたどうしてもその100年前を見ることになる。1745年から1845年の100年。そこにあるのが「産業革命」。

そんなこんなことを総合的にとらえ、考えて、2045年は「シンギュラリティー」とは違う、別な状況を予想した。

その予想へと進みつつあるのかしらと思い始めた。もっと視野をひろくして、自分のやるべきことを自問しなければいけないと思い始めた。

まずはすぐにできることをしようと決めた昨日今日。

2020年4月16日（木） 晴れ

今日は朝からよく晴れている。例年なら造幣局の通り抜けの時期、それも中止になった。でもしっかり咲いて、また来年も咲く。

— おのおのが身近なところでよりよきことを —

まさかテレビで「加川良」を聞くことになるろうとは。「杏」さんが『教訓 I』をギター弾きながら静かに歌う。その姿がネットで話題になっているというニュースをみた。

動画のカメラに顔をむけず、ただ自分の練習のように弾き語る。その姿は自然で、これ見よがしでない。それが人柄を表しているように見えた。想定外、緊急時に人間の本质、本領が表れる。

人の〈フリ〉をみなくても、自分の〈フリ〉は自分で問い続けたい。どんな場合も自分のできることは限られる。でも自分だからできることはある。すぐにできることを昨日今日、「プロジェクト」にあげた。

2020年にふたたび、1970年の『私たちの望むものは』、『教訓 I』。先日、2年前に作成した300年の時流図を見直した。昨日あらためて1945年からの100年を見た。

未来への大分岐点。『データ・リテラシー』を磨いて、おのおのが身近なところでよりよくなるように、自他ともに働きかける。わたしもその実践をこころみるのです。

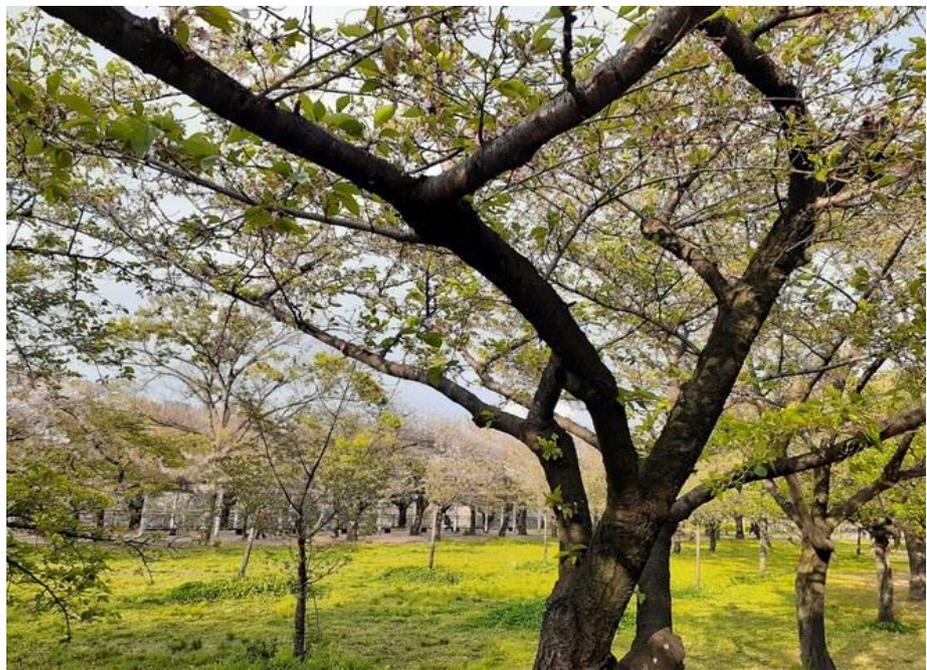
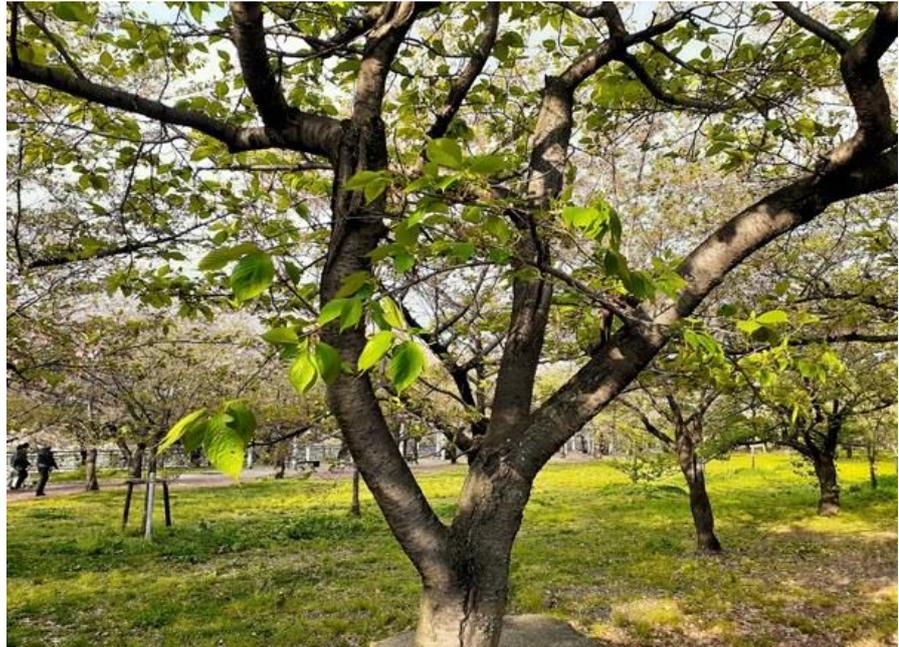
2020年4月16日（木） うつぼ公園

3月から朝型のレベルを引き上げ、事務所に早くきて、早く帰る。帰りはできる限り、運動がてら「うつぼ公園」へ寄る。春の花が目白押し。



2020年4月18日（土） 大阪城公園南外堀

今は公園ぐらいしか行くところがない。桜は葉桜、新緑鮮やか



2020年4月20日（月） 朝は雨

昨夜から雨。今朝方は強く降った。午後から晴れてくるらしい。雨あがり、新緑が映えそう。

— 今のこどもたちは「～世代」？ —

自主制作の文集を昨年末にいただいた。「はじめに」に、「司馬遼太郎」の次の言葉が紹介されていた。

『こどものころは、たれもが時代と地域をマユのようにして育つ』。

そう、そして「団塊世代」、「氷河期世代」と言われるようになる。氷河期世代はリアルタイムでその状況を知っている。わたしはすでに独立していた。当時新聞には就活に苦戦する彼らのことが連日載っていた。

今年2020年に小学校へ入ったこどもから新社会人になった人たちまで、今おかれた状況は将来の彼らにどういう意味をもってくるだろう。いま日常で見聞きする大人たちの言動に何を感じているだろう。

今回の事態の一つの節目を迎えるのは10年後、2030年。小学1年生が大学に入ろうかという頃、その10年の間に、どのような社会、世界になっているのか。

彼らが社会人になる2035年頃には、「～世代」と言われるようになってはいるはず。第一線で力を発揮する年齢は2045年頃。1945年から100年の節目。嬉々として活躍できている未来であってほしい。

2020年4月22日（水） 徐々に晴れ

気温がまだ低くなってきた。明日は3月並みとか。経済活動が世界的に停止し、環境汚染が少し改善しているらしい。それと関係ある？

ー 身近なところで小さな努め ー

「緊急事態宣言」から2週間。4月1日（水）の「女性チャレンジ応援拠点」はまだ開室していた。ちょうど担当日だった。それがはるか前のように感じる。

歴史の大きな出来事のただ中にいま生きている。そういう感覚をもつ。昔読んだ本の中に描かれていた社会情勢と人間のおかれた状況、登場人物たちの日常。それを自分がいま体験しているという感覚。

10代から20代にかけて小説をそこそこ読んだ。当世の作家ではなく、ひと世代、ふた世代前の作家のものを選んで読んだ。今もそうだけど、「流行り」にあまりそそられない。そういう性質としかいいようがない。

過去の歴史のただ中を生きた作家たちの作品を読みながら、一番おもったのは、どうあれ、人間は生きている、ということ。遅く、大らかに、はたまた、抜け目なく、われ先に。

平時には見えないものが、予想外や異常時に見えてくる。今をいきる子ども、若ものには今の社会の様子、大人たちの姿をよくよく見ていてほしい。知性・感性に働きかけるものがあり、未来に生きるはず。

さて、大人にもできることは限られる。でも自分だからできることもある。まずは身近なところで誰かのためになるよう努める。そういう大人がそこかしこにいれば、不安定さをやわらげることができる。

その想いでわたしは今やれることをやっている。

2020年4月23日（木）午前11時すぎ、阪急うめだホワイティー地下街

阪急三番街からホワイティーの地下をとおり、阪急の食品売り場へ向かう途中、薄暗い地下街に人はほとんど歩いていない。こんな街の風景をみることになるうとは。



2020年4月24日（金） 晴れ、気温は低め

日の出がはやくなった。5時前には明るくなり始めている。先月から朝型のレベルを引き上げて、今朝は7時に事務所に着いた。帰りは3時半頃。超朝型、いつまで続けることになるか。

— 『BBB Build back better』 —

『よりよく再建しよう』。ニュージーランド出身の脚本家が語ったフレーズらしい。これに触発されたのか、ニューヨーク知事は、『再建するなら、前よりよいものを Build it back better』という標語を使い始めたとか。今日の日経朝刊に紹介されていた。

「よりよく」、それはわたしの「パーソナル・アシスタント」の存在理由でもある。アシストする相手のよりよい未来のために、よりよい働きかけを試みて、実践を下支えする。

仕事であって、なくても、頼まれても、頼まれなくても、ふと思いついた時には必ず何かしらアプローチする。今のこの事態、とにかく、未来への大分岐を実感して、それを続ける。

先週『プロジェクト』に、「電話対話」と「往復書簡」をあげた。時間はたっぷりあるから、この機会にやっておきたい片づけや雑務をしつつ、しばらく連絡を取り合っていない先や、気になる先に便りを出す。

大きな仕事も小さな仕事の積み重ね。小さな仕事のつながりが大きな仕事の成果を左右する。『Build back better よりよく再建しよう』。そうしよう、小さいながらも、自分は今もこれからもよりよい働きかけをしよう。

2020年4月27日（月） 晴れ

朝一番は薄雲がひろがっていた。陽が高くなるにつれ、晴れてきた。北海道はようやく梅が咲いたとか。大阪は躑躅が満開、藤の花もそろそろ。さて、連休明けに「宣言」は解かれるか、どうか。

ー暮らし方に幅をもたせるー

“こういうものを作るようになるなんて…”。使い勝手のわるい小ぶりのシルクスカーフをほどこき、マスクカバーを昨日作った。

マスク着用が必須になり、とうとうカブレてしまった。目の下から頬にかけて赤く、ざらざら、痒みもでてきた。このまましていたら、大変なことになる。なんとかしないと…。

元々シルク類は愛用、まずはポケットチーフでマスクを包んでみた。先週月曜に初装着。これがナイス、赤味も痒みも急改善。

これに気をよくしてハギレと化した昔のスカーフから正方形の4枚切りとり一週間使って、皮膚の状態はさらに劇的改善。

当分マスクは着けることとなるし、いざ、本格的に在庫づくり。人の倍時間をかけ、まずは4枚完成。

「コロナ」下、出前や「Zoom」など手軽なサービスの需要も増えているが、ちょっと手間をかける<手づくり>も増えているのではないか。

少し前にメールのあった友人はマスクは手づくりしている書いていたし、ネットではパンの手づくりキットが売れているらしいし。

わたしから勧めるとすれば、手書きで音信をとってみては？季節の絵葉書に何を書くか、記念切手からどれを貼るか。

そんなこんな<間>が送る側のよい一服になる。手書きはかなり少数派になったようだから、受け取った人には新鮮で気持ちやわらぐはず。

慣れないことをちょっと試してみる、既存にないものをあるもので工夫してみる。いろいろと、暮らし方に幅に幅をもたせる、「コロナ」下。

2020年4月30日（木） 晴れ

午前5時すぎにはすっかり明るい。今日は気温が上がる予報。着るものもウール類は昨日を最終にした。5月5日は立夏。

ー変えないためにも変えるー

今朝の日経によると、「宣言」の延長は確実。となると、一歩また先に進まなければいけない、それぞれに。

創業塾をたくさんやっていた頃、『時流と自流の経営・人生』という話から進めていた。

創業の想い・志を変えないためにも、やり方は変える必要がある。時代の流れとともに、社会の構造が変わるのだから。

「構造が変われば、人間の意識が変わる。意識が変われば、行動が変わる」、わけだから。

「やり方を変える」のも、皆がこぞってやっていることをやっても意味がない。たくさん選択肢から、自社・自分の業と流儀にふさわしいものを選ぶ。

新しい方法だけでなく、既存のやり方で、この機会に見なおしているものもある。個人的には、従来の普通の電話。

すぐ、簡単に、連絡がとれて、相手の顔を浮かべ、声の表情を感じ、あれやこれや会話する。聴覚への働きかけ。なかなか新鮮。

仕事上の必要性からビデオ通話のセッティングは先週したが、あらためて、「声」に関心。

音声を通じて自分の役目の一端を果たせないかと思い立った。そこで少し試してみた。以下の「ひと言ひとり言」、まだテスト段階。

よい働きかけができるか、できないか、これも一つのこころみ。

2020年5月4日（月）メモ

「宣言」は延長が決まりました。5月末までとのことです。